

第57回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第57回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	令和5年1月23日（月） 午後3時30分～
開催場所	河内長野市役所 802会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	2人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> （1）南花台モビリティ「クルクル」による地域移動支援事業の有償実証実験の延長について （2）地域特性に応じた持続可能な公共交通サービスの確保及び地域公共交通利便増進実施計画の策定について （3）令和4年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー）に関する事業評価について （4）河内長野市地域公共交通計画の策定について （5）河内長野市版 MaaS の進捗状況について （6）その他
会議内容	別紙会議内容のとおり

第57回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容（要旨）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第57回河内長野市地域公共交通会議開会の案内 ➤ 各委員の出欠状況の報告
政策企画課	<p style="text-align: center;">議題（1）南花台モビリティ「クルクル」による地域移動支援事業の有償実証実験の延長について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 議題（1）について政策企画課より説明。 <p style="text-align: center;">（各委員の主な発言内容および政策企画課からの回答は以下のとおり）</p>
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ➤ クルクルは、最終的にはどういう風になりますか。 ドア to ドアになりますか。そうするとタクシーの意味がなくなってきます。延長ルートも結構増えていますので、この辺で終わっていただかないと、他の地域でもこれを広げられると、タクシーという公共交通事業が成り立っていきません。どういうふうな計画を立てているのか、教えていただきたいです。
政策企画課	<ul style="list-style-type: none"> ➤ バス会社さんやタクシー会社さんとの連携が非常に重要だと思っております。今回、自動運転ルートの延伸は南花台地域内の移動という形をとらせていただいております、そのまま駅に繋がっていくようなものには拡大をしていかないように思っております。 他の地域から、いろいろとお声をいただいているところでございますが、そちらにつきましても、バス会社やタクシー会社様との協議などを進めていながら、一緒に協力して、地域内公共交通が、どのような形でできるのかを考えていきたいと思っておりますので、これからもぜひご協議のほどよろしく願います。 ドア to ドアの自動運転化につきましては、自動運転技術や法的制度上でもハードルが非常に高いと考えています。実際に技術的にできるようになったときに、地域住民の方とやっていけるのか、タクシー会社さんとお客様を取り合うことにならないのか、改めてご相談をしていながら、地域住民による移動支援と、公共交通の維持継続を両輪で見ながら進めていきたいと考えております。現時点でドア to ドアは将来像としては考えていますが、どのように進めていくかについては、この地域公共交通会議も含めて、一緒に協議を進めていきたいと考えております。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ➤ わかりました。ドア to ドアについてはこれから先の話になると思いますが、この問題については、当社や他の会社でも協議は必要と思われるのでよろし

	<p>くお願いします。</p>
榎井会長	<p>➤ バスやタクシーなど既存の公共交通は非常に大事ですので、十分話をしながら、住民の方が少しでも便利になるような形を考えていきますので今後もご相談をさせていただきます。</p>
日野副会長	<p>➤ 確認も含めてですけど、自動運転については、路面に電磁コイルを埋めて、その上を誘導して走行するという形でルート設定しているもので、つまり個別の家にはいかないものです。この自動運転のルートで、アクセスできない人に対して、また別途オンデマンドで手動のドア to ドアのサービスをするものです。その両方に有償運送の認可を受けたいという理解で良いですか。</p>
政策企画課	<p>➤ ご意見の通り、オンデマンドの運行の継続をしていくこととなりますので、そちらの有償運送と定時定ルートの自動運転による有償運送両方の実証事業の1年間の継続をお願いします。</p>
日野副会長	<p>➤ 今説明されたように、基本はこの定時定路線の自動運転がベースになっていて、それを定着できるように実験で有償サービスし、その補完として、そこに直接アクセスできない人に別途ドア to ドアの手動の有償運送をやるということになっていると思います。</p> <p>これについては、今実験という形でいろいろやっただけなので問題はないと思いますが、本格運行を始めるとなった時に、自動運転については経費の問題があります。今は実験ですが、将来横展開するということになると、工事費や車両費、運行費などどうするのか。それを見積もるためにも実験をされて、将来にわたってそれが本格的に実施できるかどうかを実証していく必要があります。工事などの費用を有償運送の運賃や広告サービスでどのぐらい賄えるのかということも見ていくという進め方は、元々の内閣府の実証実験の継続ということだと思います。</p> <p>それとは別のサービスとして実施されるオンデマンドの有償運送に関しては、今は実験ですが、将来的に固定化させようとしているのか。これを固定化するとすると、もともとは空白地域における有償だと思ってしまうので、市街地においても定着されることについては、運輸局さんの考えもお聞きしながら進めることになると思います。</p> <p>今後、横展開するときに、自動運転は難しいからオンデマンドの有償運送だけしていこうという形でされることにもあるかと思えます。将来どうしていくのか、運輸局さんとも相談をしていただいて、今後のことをまたこの場でも、ご報告いただければなと思っています。</p> <p>本来なら、この自動運転の方で皆さんが使えるような形を目指していただい</p>

	<p>て、それを利用できない人については別途自動運転のところまで何らかのサポートをできるような形をとった方が、私としては良いのではないかと考えています。そのあたりを今後、この1年間検証していく中で、ぜひ明確にさせていただいて、ある時期に会議の中でご報告いただき、将来の展開についても、ぜひご提示いただければと思います。</p>
<p>政策企画課</p>	<p>➤ 大阪運輸支局と、日野先生にも入っていただいています未来技術地域実装協議会の場合は、今年度もう一度会議があるかと思っておりますので、そこでもご意見をいただきながら、密に連絡を取っていきたいと思っておりますので、ぜひこれからもよろしくお願ひいたします。</p>
<p>坂本委員</p>	<p>➤ 3点ほどあります。 電磁誘導線が引かれているCルートのところでは、ナンバープレートがついていますから当然普通の道を走りますが、電磁誘導線を入っている位置を見たら、白線より内側に入っていると思います。その部分を、時速何キロで走るのかが一つ目の質問です。 その上で、近づきすぎると止まるシステムがついているのかというのが二つ目の質問です。 三つ目の質問が、バスは、朝の駅行きの時間帯はどうしても気持ち的に急いでいます。自分の目の前にその自動運転の車両が入るようなことはあるのかなのか。時間帯をずらして、設定しているのかが一番気になるとことです。</p>
<p>政策企画課</p>	<p>➤ 3点それぞれご回答をさせていただきます。 1点目でございますが、まず自動運転走行中は最大時速が12キロとなっております。電磁誘導線は1周ルートを回らないと電気が通電しないので、このCルートも通電させるために電磁誘導線を敷設させていただいております。このうちバス路線である市道線上は手動に切り換えてから走るというルールで進めております。手動でも時速19キロまでしか出ませんので、一般の車両に比べると遅く、場合によっては前の車後ろの車の方にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、時速は12キロではなく、ここに対しては手動で、運行したいというふうに思っております。 2点目については、止まるシステムはもちろんです。前に障害物があったり、目の前に車があったりとかしますと、アラートが鳴って、緊急停止をするということになっております。この点でも、先ほどお話をさせていただきましたように、市道のところでは、交差点のところでは、一般の車両の後ろに南花台クルクルが来ることも考えられます。エラーで止まってしまうということも起こりえてしまいますので、市道を走る時は手動で運行をするというふうにさせていただきます。</p>

	<p>3点目の時間につきましては、現在、土曜日に南花台でクルクルを運行しており、C、Dルートを追加するにあたりシフトを2倍にして運行をしようと考えております。時間は10時台から13時台の4時間でございます。この10時台から13時台の4時間に、今はA・Bルートだけを1台で走っているものを、車両を二倍にして、A・Bルートをまわるものと、C・Dルートを回るものという形で2台で運行をしようと考えております。市道のところで南花台1丁目の北と南花台1丁目の南のところのバス停がございますので、そのあたりの時間帯でバスとかぶらない時刻表をつくれるかどうかを、来週以降に、地域の方とヤマハと一緒に、自動運転で走りながら検討していくこととなります。できる限りバス会社様に、ご迷惑をおかけしないように、運行時刻表を決めていきたいと思っている次第でございます。</p>
高平委員	<p>➤ Cルートで国道371号の上の高架も通られると思いますが、ここの道路区域は、河内長野市道という理解でよろしいでしょうか。</p>
政策企画課	<p>➤ その通りです。</p>
高平委員	<p>➤ 特に大阪府の管理区域は通られていないと聞いていたのですが、気になりました。</p>
岩佐委員	<p>➤ 先ほど時間設定にあたって既存のバスダイヤを考慮するというお話でしたが、弊社の方でダイヤ改正をする時の調整は、どのように考えさせていただいたらよろしいですか。調整する場をいただくことは可能でしょうか。</p>
政策企画課	<p>➤ 地域の方と一緒に決めておりますので、事前にご調整させていただいて、それを地域の方に周知できるような形であれば、いつでも時刻変更は可能です。実際実証実験では、既存のA・Bルートにおきまして、運行時間が12時台までだったものを13時台まで延ばしたこともあり、地域の方にお伝えしながら進めさせてもらっています。</p>
岩佐委員	<p>➤ 変更する場合は別途協議をさせていただけたらと考えておきます。</p>
会長	<p>➤ その他、ご意見、ご質問ないようですので、それでは、南花台クルクルの有償化の延長については、ご承認いただくということではよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし、承認)</p>

	<p>議題（６）その他 大師町、日東町の電動カートによる移動支援の実証実験の延長について</p>
政策企画課	<p>➤ 議題（６）について政策企画課より説明。</p> <p>（各委員の主な発言内容および政策企画課からの回答は以下のとおり）</p>
仲村委員	<p>➤ これは、市としてどのように支援されるわけですか。 他の地域でもして欲しいと言われている方もいると思います。もう少し明確な形でお願いしたいと思います。</p>
政策企画課	<p>➤ 予算的な部分でいうと、市と一緒にさせていただいているものではございません。フィールドとして、この日東町・大師町、自治会名で言うと楠翠台・楠台の自治会で、運行をさせていただいております。予算はヤマハ様のもので実証実験を実施されており、市としてはフィールドの提供や地域の方との連絡というところでご協力をさせていただいております。</p>
仲村委員	<p>➤ お金の問題ではなくて、実際にかかっているんで、他の地域もやって欲しいという意見があるということです。</p>
政策企画課	<p>➤ もちろん他の地域からも、例えば南花台と同じようなものを自分たちの地域に導入して欲しいというご意見は、今でもいただいております。この実証実験に関わらずいただいているところではございますが、地域の住民の皆様と一緒にどのような形でその地域において、公共交通と連携した運営と移動支援が実現できているかを考えていかないといけないと思います。この地域公共交通会議の先ほどの議題の中でもお話をいただいたように、タクシー会社さんやバス会社さんと一緒に連携をしていかないと、日野先生が言われたように、地域の方が勝手に移動手段をやってしまったみたいなことになると問題になります。どのような形で合意形成を諮っていくかについては、地域の方から勉強会の開催を依頼される中で、南花台は例えばこういう形でやっており、また他の地域では別の形で実施しているなど、都市計画課や地域福祉高齢課と一緒に説明させていただいております。このような説明などをしていきながら、地域の方と一緒に公共交通の維持と移動の支援を目指していきたいというふうに考えております。</p>
仲村委員	<p>➤ ちょっとすっきりしないけど良いです。</p>
坂本委員	<p>➤ 正確な数字を出していくべきことですが、情報提供です。 河内長野駅からの便について、小深線の大師町、東中学校前、日東町というバ</p>

<p>岩佐委員</p>	<p>ス停のお客様の乗り降りが、このイズミヤまでいく実証実験が始まったときに極端に減っています。乗務員からの話では買い物のお客さんが乗っていないと実際に話が出ています。コロナが原因で減った部分もあるかもしれませんが、利用客が減っているのは現実的に目の当たりにして感じているところです。</p> <p>➤ 坂本委員からもご意見がありましたが、南海バスとしては、河内長野市域を赤字の状況の中、コロナ禍においても継続的にバスを走らせて公共交通の役割を果たしていきたいと思っています。</p> <p>市からのいろいろな支援をいただきながら走っているのが実情ではありますけど、こういったものが拡大していくというのは、利用者のニーズという部分では、当然私も市民で利用者でもありますから理解はできますけれども、体系を維持して、健全に公共交通を維持していくという観点から懸念しているところでもあります。こういったものを、どういうふうに、位置づけていくのかを整理していかないと、最終的には先ほど、坂本委員が言われたように、公共交通からお客様が他に流れて行って、減便していき、廃線になる流れを加速させていくことになりかねないと思います。</p> <p>もう少し、市で受けとめていただけたらというところを切に願っております。意見ですので、コメントは結構です。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ 今おっしゃっていただいたことはすごく大事なことで、南花台の実験のときにも、公共交通の関わりについて、明確にしていってほしいということをお願いしました。自動運転についても、バス停へアクセスするということが可能なかどうか。バス停へのアクセスが多いような状況であれば、基本計画となる「公共交通のあり方」の中にありましたように、バスで移動するためのアクセスの交通として、公共交通網の中にも組み入れることができます。そうではなく、買い物とかローカルの移動だけであれば、地域の移動支援サービスとして、公共交通からは離れたところになるのかなと思います。</p> <p>今回、実験を延長されているヤマハさんの取組について、今ご指摘があったように、公共交通とバッティングすることがあれば報告をいただかないといけないと思います。その際には南海バスさんとも協議していただいて、利用者数の変動とかも合わせて検討していただかないといけないと思います。</p> <p>もう1点は前も申し上げましたが、地元の方々に、これは実験なのでこの期間が終わったらなくなりますということを明確に約束していただきたいと思います。利用者が多いから延長するという話があったので、それだけ需要があるわけです。なくなると地域の方々が役所に言ってくると思います。先ほど、仲村委員から、役所はどう関わっているのかと話がありましたけど、役所が連携し仲介していると、住民の方々は役所の方に絶対言ってくると思います。もっと継続して欲しいや何かしろと言われるのが非常に懸念されるので、前回の</p>

	<p>とき申し上げたように、これはあくまでヤマハがデータを取るためにやっています、そのことに対してあの場所を提供するので、その期間だけ皆さんにご利用いただけます、終わったらなくなりますということを、再度住民の方々に説明をしておいて欲しいと思います。そうでないと、仲村委員が懸念されたようなことが起こって、他の地域からもどんどんそういう要望が上がってくことになります。これは河内長野市が過去からやっているように、地域で何かをしたいという時は、手を挙げていただいて、役所と事業者さんも含めて勉強会をして、その中で地域で何ができるかということを考え、立ち上げていく。これが基本的な進め方なので、他の地域でやっているから自分の地域もやってくれているのは、違うのだということをしかりと説明していく必要があると思います。その点ぜひお願いしたいと思います。</p>
<p>榎井会長</p>	<p>➤ 様々な課題があるのは今わかりましたので、その辺も含めて、検討して対応していきたいと思います。</p>
	<p>議題（２）地域特性に応じた持続可能な公共交通サービスの確保及び地域公共交通利便増進実施計画の策定について</p>
<p>事務局</p>	<p>➤ 議題（２）について事務局より説明。</p> <p>（各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり）</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ 確認ですが、この増進計画の横長の資料について、この中で石見川などの取組を具体例として、申請しますということですが、この地域だけが増進計画に該当するものになるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>➤ 今回ご提示させていただいたのは、石見川から鳩原地域に関する取り組みになります。この地域は、今回路線バスが廃止という残念な結果には決まりましたが、その代替手段としての取り組みをモデルケースとして構築するというのが計画の目的になっております。我々もこういった形で、公共交通を色々な形で、維持確保していくことが最終的な目標というふうに考えております。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ こういう場で質問することではないかもしれませんが、これを申請したら、補助金が出ることになると思います。その補助金は、今出ている臨時交付金と同じように、特定のものだけじゃなくて、公共交通の全体のために利用するというもので、問題があるところには少し多めに配分でき、その裁量は地方自治体にあるというふうに理解しています。今回もその部分だけに補助金を充てるというわけではないという理解しています。要するにこれを例として申請をしますが、それに対して認可され、補助金が出た際にはここの事業だけにそ</p>

	<p>れを充てるというのではなくて、公共交通の利便性を向上させるための全体としてそれを、あてるという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>➤ 具体的に今回のこの利便増進計画を実施することによって、何が変わるのかというところですけども、こちらの会議でも何度か諮らせていただいている国のフィーダー補助の算定の方法が変わるということになっています。フィーダーの路線は赤字路線となっていて、こういったところに手厚く充てると考えています。それがひいては河内長野市内の公共交通ネットワークの維持に繋がっていくと思っています。</p>
日野副会長	<p>➤ この公共交通維持のためにはいかに財源を確保するかは、大きな問題でもあるので、こういう補助事業があれば、できるだけ申請をして採択してもらって、補助金を確保することが大事だと思います。その際に、この事業だからこの事業だけに適用するというものがあるかもしれませんが、一方でその事業をベースにしているのだけでも、全体の事業に充てることができるということもあると思います。今後この河内長野市の公共交通全体のサービスをどう維持していくかというときに、財源をどう確保してどう充てていくかということを考えることが非常に大事なことだと思うので、確認だけさせていただきました。</p>
事務局	<p>➤ 今回、補助金をいただけるということで、国の方ともいろいろと相談しながら実施したものになっております。今回の件でより親密な関係になれたと思いますので、また、国の方と、色々な補助制度を相談しながら、新たに財源が取れるようなことがあれば積極的に申請し、河内長野市内の公共交通ネットワークの維持に繋がるような取り組みをしていきたいと思っております。</p>
会長	<p>➤ それでは、石見川・小深・太井・鳩原地域乗合タクシーにおける路線定期運行と区域運行の本格運行への移行及び地域公共交通利便増進実施計画の策定について、ご承認いただけますでしょうか。</p> <p>(異議なし、承認)</p>
会長	<p>➤ 本件につきましては、令和3年度から2年間かけて、自家用有償旅客運送と、地域乗合タクシー、デマンドタクシーというものが形になりました。この取り組みについては、地域住民としっかり協議を重ねた結果が、国の利便増進事業に該当するほどのものになったのではないかと考えております。ただし、今回で終わりというわけではなく、今スタートラインに立ったところでございます。引き続き、地域住民の方と、また、交通事業者の方も含め、3者協働で、より良い公共交通にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいた</p>

	<p>します。</p>
<p>事務局</p>	<p>議題（３）令和４年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー）に関する事業評価について</p> <p>➤ 議題（３）について事務局より説明。</p>
<p>榊井会長</p>	<p>➤ 本事業評価については、この後、事務局より、国へ報告をいたします。その際の細かな表現等の修正につきましては、事務局に一任ということによろしいでしょうか。</p> <p>（異議なし、承認）</p>
<p>事務局</p>	<p>議題（４）河内長野市地域公共交通計画の策定について</p> <p>➤ 議題（４）について事務局より説明。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>（各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり）</p> <p>➤ 国の指定する地域公共交通計画としてはよくできていると思います。「公共交通のあり方」の改訂も見据えての意見になりますが、何度も申し上げているように、人口減少でどんどん人が減っており、また、自動車の方が２人以上の利用だと安くて快適であり、自由度が高い。そうなってくると、公共交通をなかなか選ばなくなります。そのためには、公共交通が自家用車などの個人の所有する物と競争できるような環境を作っていくといかないといけない。今後、それを都市計画の面でどう対応するのか。都心には車が入れないというような規制をかけたり、例えば観光地についても今も長野県でやっているように、一旦駐車場に停めて、小型バスに乗って、その上まで上がっていくような仕組みを作ることの一つの方法だと思います。</p> <p>もう一つは車の方今安い感覚があるので、公共交通の乗り継ぎ割引や、企画切符だとかそういうことをやることで、車で行くより安く、費用面でのメリットを与えることなどがあると思います。ゆくゆくはMaasという形で、具体化していくということになるので、これはぜひ事業者間で今までの垣根を乗り越えるようなことを本気で考えていただきたいです。役所での都市計画からの対応や、また事業者も含めて、車よりも公共交通の方を選ぶ環境をつくるという取り組みを、本気で進めるように是非お願いしたいです。</p> <p>今回の公共交通計画は、まちづくりと連携したものをやるということですので、そこまで踏み込んではないものになっています。これはあくまで５年間の実施計画なので、あり方でそういうところをしっかりと明示して、それをいかに具体化していくかということを、ぜひこういう場で議論し、実現していただ</p>

	<p>きたいです。事業者の方々にも、今まで以上の割引などで、垣根を越えた検討をお願いしたいと思います。あくまで意見と、お願いということで、返事は結構ですので、是非よろしくをお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>➤ あり方を改訂するタイミングでこういった大きな方向性を示していきたいと思います。取組を実現するには、市だけで頑張ってもできない、交通事業者だけで頑張ってもできない、地域の方だけ頑張ってもできない。やはり三者協働で取り組んでいって、壁を乗り越えていくような話になってくるとと思います。この会議でせっかく集まっていますので、意見をいただいたり情報共有をしたり、色々な形で活用していきながら、将来に残るような公共交通ネットワークを構築していきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>➤ それでは、地域公共交通計画の策定及び計画策定に関わる委託事業の報告について、ご承認いただけますでしょうか。なお、事業報告については、この後、事務局より、国へ報告をいたします。その際の細かな表現等の修正については、事務局に一任ということによろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし、承認)</p>
<p>会長</p>	<p>➤ 地域公共交通計画は、本会議で4回にわたりご審議いただいて参りました。すばらしい計画になっていると思いますので、計画が計画で終わらないよう公共交通施策を具現化させていってください。</p>
<p>事務局</p>	<p>議題(5) 河内長野市版 MaaS の進捗状況について議題</p> <p>➤ (5) について事務局より説明。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>(各委員の主な発言内容および事務局からの回答は以下のとおり)</p> <p>➤ 冒頭、MaaS の説明をされました。それから考えると、今回は、MaaS とは呼べないようなものだと思います。要するに、ある一つのサービスだけをやっている。例えば、映画でも会員になっていればスマホで情報が見られて、そこで予約や決済ができます。ホテルもそうですし、通販などもほぼ一緒だと思います。今は一つの乗り物に対してのサービスになっているので、本来の MaaS であれば、もっと多様な交通手段と連携をしながら、今ここでやろうとしているようなことができるようになるということが必要です。</p> <p>色々なことを検証していただいて、事業者さんにも是非ご協力いただいて、路線バスやタクシー、それから鉄道だとかを含めたような総合的な形にしてい</p>

	<p>ないといけない。これは河内長野市だけでできるものではなく、色々な条件の壁もあると思いますので、今回はその一端として実験でされるという理解でいいのかなと思っています。</p> <p>宣伝として、他のところも色々な MaaS をやっていますが、基本的な考え方は説明されたようにしっかりと残しておいていただいた上で、将来的には河内長野市を中心として、路線バスやタクシー、鉄道も含めたような連携した本来の MaaS という形に展開していけるような形の検討をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>➤ 補助金を活用して3年間、この MaaS ということを進めて参ります。その間には関西万博含めた関西 MaaS も大手鉄道会社の方で進められています。そういった動向を見ながら、先生が言われたように、本来の MaaS、もっと広いサービスを目指し、今回その実証実験的な要素も入れ、まずファーストステップを踏んでいきたいと考えております。</p>
会長	<p>➤ MaaS を進めていこうと思うと、本市だけではなく、例えば南海バスや第一交通、南海電車も入ってくれたら一番良いとは思いますが、まず南海バス、タクシー事業者、そういうところと一緒に色々な取り組みを進めていきたいと思っています。例えばこの MaaS アプリ一つ持っている、観光施設や河内長野に多くある神社仏閣に手軽に入れたり、何か特典があったり、河内長野のことを全く知らなくても、色々なところが最短ルートで行けたり、バスやタクシーに乗って手軽に市内一円を回れたりできると良いと思います。河内長野市には魅力的な場所が沢山ありますので、たくさん回っていただけるような形になっていければと思っています。</p> <p>まだ始まったところですけども、期待していますし、私も一緒にやっていきたいと思しますので、よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>議題(6) 地域バス楠坊、日野・滝畑コミュニティバスのダイヤ改正について</p> <p>➤ 議題(6) について事務局より説明。</p> <p>(各委員からの意見なし。)</p>
会長	<p>➤ 本日の議題は以上になります。これにて第57回河内長野市地域公共交通会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。今後とも、本市の公共交通の維持、充実に向け、皆様のご協力をお願い申し上げます。本日の会議を終了させていただきます。長時間にわたり誠にありがとうございました。</p>